

研究主題 「自己を見つめ、自己の生き方についての  
考えを深める児童の育成」

～語る・論じ合う授業実践を通して～

熊谷市立江南北小学校

### 1 研究主題の設定理由

各種調査の結果から、本校には、自分の思いや考えがあっても、それを他者に伝えることに躊躇する児童が多いことが明らかになっている。この課題の解決に向け、令和5年度から研究実践を積み重ねてきた。令和5年度末のアンケート結果から、これまでの実践が課題の解決に向けて効果的だったことがわかった。

令和6年度も引き続き、一人一人の児童が教材の内容を自分自身の問題と捉えて真摯に向き合い、自分なりの思いや考えを確かにもてるように工夫すること、そして、その思いや考えについて、他者に躊躇なく語ったり、他者と論じ合ったりすること、これらを通して、自己の生き方について深く考えられるようにしたいと考え、本研究主題を設定した。

### 2 研究の仮説

(1) 児童が自身や他者の思いや考えと向き合える場、思いや考えをより多面的に多角的に膨らませる場、教材の内容を自分の心に落とし込める場などを意図して設定することによって、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童を育成できるであろう。

(2) 児童が自身の思いや考えを「見える化」できる環境、戸惑いなく学習を進めていける環境、常時道徳性に触れられる環境を意図して整備することによって、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童を育成できるであろう。

### 3 研究の経過

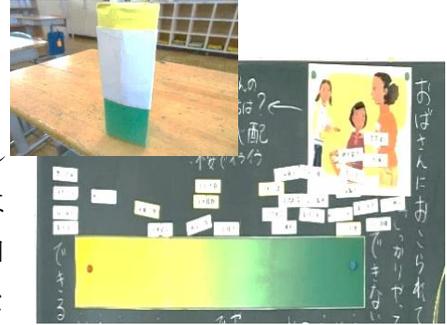
時 期	内 容
4 月	・研究主題の検討、研究の方向性と研究組織の再考
5 月	・研修計画の検討、授業者の決定、部会による研修
6 月	・部会による活動、指導案検討
7 月	・第1回 校内授業研究会 研究授業 2年1組 ・hyper-QUの実施
8 月	・部会による活動、指導案検討
9 月	・「夢と豊かな心をはぐくむ講演会」 『夢を叶えるために大切なこと』西武ライオンズ
	・第2回 校内授業研究会 研究授業 3年2組 5年1組
10 月	・指導案検討、環境整備
11 月	・研究発表 研究授業 3年1組 6年1組
12 月	・部会による活動内容のまとめ
1 月～3 月	・hyper-QUの実施 ・研究のまとめ（来年度の学校研究の方向性）

4 研究の内容

(1) 授業・調査部の取組

ア 考えの見える化

自分の考えを伝えたり、友達の考えと比較したりしながら語り合うために、考えを見えるようにした。思考ツールを効果的に使うことで、自他の考えを尊重しながら主体的に語り合うことを目指した。



イ 「語り合いタイム」とキーワードの掲示・活用

全教科で「語り合いタイム」を実施した。その語り合いタイムがより充実した内容になるように、キーワードを掲示した。友達の意見に対して、児童同士で切り返したり問い直したりする力が身に付き、「語り合い」を通して学びを深めることができた。



考えを伝え合う姿

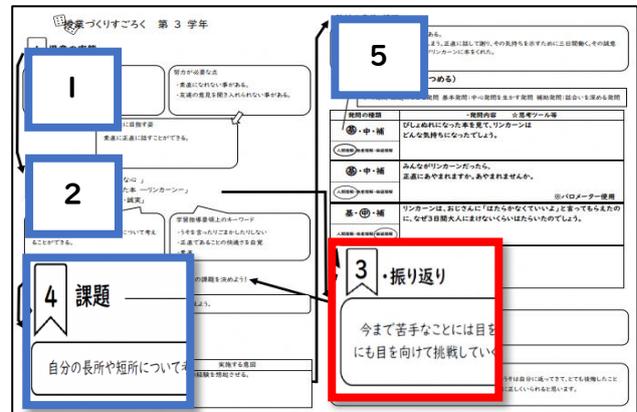
じっくり聞く姿



ウ 教材を分析するための「授業づくりすごろく」の見直し

教材分析の資料「授業づくりすごろく」を見直した。

- 1…児童の実態、目指す姿
- 2…主題名、教材名、内容項目、教材のよさ、学習指導要領のキーワード
- 3…教師の期待する振り返り
- 4…課題
- 5…授業の流れ



教師の期待する振り返りから課題を設定することにより、手法だけにとらわれず、内容項目の理解に焦点をしばって授業を進めることができた。

エ 「彩の国 教育週間」での道徳教育の取組

彩の国 教育週間で彩の国の道徳を活用した取組を実施した。児童の考えや振り返りが書かれたワークシートをもとに、「どのように考えたのか」「なぜそう考えたのか」などを家庭で語り合う機会を設けた。



教材と保護者のコメントを掲示

〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

(2) 環境部

ア 道徳広場の充実

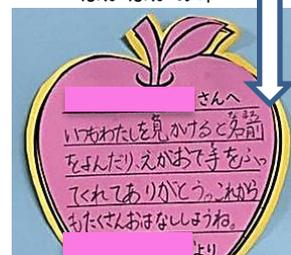
授業で学んだ道徳性が行動に結び付くように「道徳の見える化」を意識した。また、児童が日々、道徳性に触れること、自他の考えや学校の取組が見えることを目指し、道徳広場を設置した。



ぼかぼかの木

イ ぼかぼかの木

友達にしてもらって嬉しかったこと、自分が友達に与えられたことなどを実に書いて掲示した。貼り重ねられるようにしたり、給食の時間に放送で知らせたり、工夫した。



木の葉の様子

ウ 葛藤コーナーと TKD 集会

日常生活でありそうな問いを「あなたならどうする?」と掲示し、児童が自分の考えで意思決定をして、シールを貼るコーナーを設置した。シールを貼るときには、その理由も考えながら貼り、縦割り班で話し合う TKD 集会で友達に伝えられるようにした。

(※ T…とことん考え K…懇々語り D…どんどんやろう!)



葛藤コーナーでシールを貼る姿



縦割り班で語り合う TKD 集会

エ TKD コーナー

教室と職員室の廊下に、授業で活用したワークシートと板書写真を掲示することで、他者の考えに触れられるように工夫した。

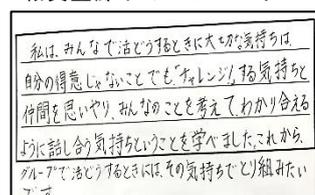


教室の TKD コーナー



職員室廊下の TKD コーナー

児童は自分の考えと友達のことを比べながら見ることができた。また、来校した地域の方が TKD コーナーを見てくださり、学校の取組の発信にもつながった。

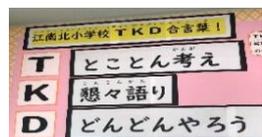


児童の振り返り

(3) その他の取組

ア 特別の教科 道徳の、頭文字を使った合言葉 TKD の決定

T…とことん考え K…<sup>こんこん</sup>懇々語り D…どんどんやろう!



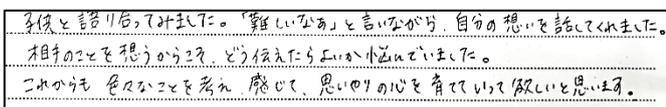
イ 授業参観で親子道徳

ウ 保護者から返信のある TKD 通信

研究について家庭に伝える手段として TKD 通信を発行した。各学年の授業の様子や児童の様子を伝える内容にした。通信には返信欄を設けて、保護者から意見や考えをいただけるように工夫した。



授業参観 親子道徳



TKD 通信 保護者からの返信

## 〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

### エ 教員自主学習会「ゆる会」

自由参加で、道徳教育以外の素朴な疑問などをテーマに話し合いを中心とした学習会を実施した。若手教員が、意見を言えるような雰囲気づくりに努めた。



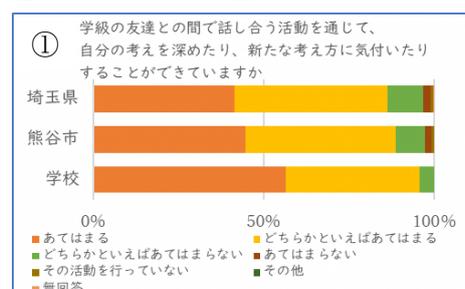
教員自主学習会「ゆる会」

## 5 研究の成果と課題

### (1) これまでの研究の成果

#### ア 全国学力・学習状況調査（R6 4/18実施 第6学年児童24名）

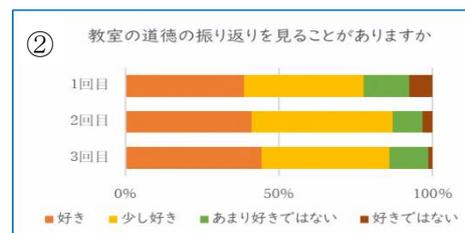
グラフ①から、本研究の道徳科や道徳教育の様々な手立て（語り合いタイム、TKD集会など）によって、自身や他者の思いや考えと向き合える場や、思いや考えをより多面的・多角的に膨らませる場を整えた成果であると考えられる。（仮説1）



研究主題設定の理由にある、児童の実態への手立てとなり、非認知能力（自己効力感）の高まりへとつながった。

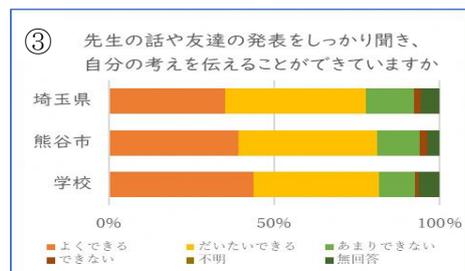
#### イ TKDアンケート（本校独自のアンケート全校児童 203人）

グラフ②から、友達の考えを見えるようにすることで、自他の考えの共有につながった。これは自身の思いや考えを「見える化」できる環境や常時道徳性に触れられる環境を整えた成果だと考えられる。（仮説2）



#### ウ 埼玉県・学力学習状況調査（R6、5月実施 第4～6学年92名）

グラフ③から、埼玉県が取り組んでいる「規律ある態度」の課題の一つである「話を聞き発表する」項目が埼玉県や熊谷市と比べて高い数値であった。本校の研究主題の「語る・論じ合う授業実践」に向けて、互いの考えを深めるために、友達に分かるように思いを届けたり、届けられた思いに対して共感したり、疑問を投げかけたりする取組を継続的に行った成果であると考えられる。（規律ある態度）



### (2) 今後の課題

#### ア 授業の質の向上

児童が自分事として道徳的価値を捉え、自己の生き方について自ら問いかけ、よりよい生き方を求め続けられるように、場づくりや環境設定の工夫に加え、教材の価値にせまる切り返しや振り返りの生かし方も研究していく。

#### イ 語り合いタイムの全面展開

引き続きすべての教科で「語り合いタイム」を位置付け、子供と教師、子供同士が向かい合いながら学びを深めていく。